

# 審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 第41回全日本クラブバスケットボール選手権大会	期間 平成27年3月20日(金)～3月23日(月)
開催地 京都府京都市	会場 島津アリーナ、ハンナリーズアリーナ
参加者 土井 理美	所属地区名 札幌地区
講師 紀ノ岡哲士 氏      近藤 巧 氏      芳賀 聡 氏      仲埜弘幸 氏      河野 仁 氏 加藤昌樹 氏      雲井俊一 氏      中島 淳 氏      竹島則夫 氏      山崎誠二 氏 小島慶子 氏      堀内 純 氏      谷地 温 氏      茂泉圭治 氏	
審判会議、講師からの事前のレクチャー内容など 審判会議では、大会期間中の服装や言動には十分に注意するようお話があった。また、本大会のT.O.は京都インターハイでT.O.を担当する高校生が行うため、T.O.とコミュニケーションを取るなどして、T.O.管理への配慮が促された。	
実技研修、座学研修等の記録 研修では「2人の協力とマニュアル4原則の徹底」をテーマとして、高校生(男子)のモデルゲームを用いて行われた。4人1組の班に分かれ、堀内純氏と山崎誠二氏に講評いただいた。特にエリアの分担を意識し、お互いに同じエリアを見る、またはいずれもあるエリアを見ていない、という状況を少なくしていくことを強調されていた。モデルゲームは7分1本という短い時間であり、「2人の協力」という点に集中して取り組むことは新鮮であり、改めて難しさを感じた。ゲームとしては、両チームともにヴァイオレーション、イリーガルなディフェンスが多く見られた。その中で、「何がダメで、何が良いのか」が分かりにくいとご指摘いただいた。ゲームによってイリーガルな触れ合いによるオフェンスへの影響は異なるが、モデルゲームではイリーガルなものを丁寧に吹いていく必要があり、ゲームが変わればそのチャンネルを変えていく必要があるとご指導いただいた。	
実践実技1 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など 平成27年3月21日(土) 対戦カード 上田恵亮整形外科(九州4位) vs JOIN(四国2位) 副審 土井 理美 相手審判 関東・神奈川県 廣瀬俊昭 氏 (A級)	
ゲーム前のカンファレンス内容 ・課題としている点を意識して、積極的にチャレンジする。 ・アウトオブバウンズについて、必要な場合は相手レフリーとアイコンタクトを取るなどして協力して判定する。判定すべきレフリーからは判定できない場合は、相手レフリーが素早くかけより、判定を伝える。 ・ゲーム中は積極的に気になる点について話し合い、早い段階で修正できるよう試みる。	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講師:本部・山梨県 小澤 勤 氏 (国際・AA級) 各クォーターのファーストコールは良かった。その判定力を40分間いかに続けることができるかが今後の課題であるご指摘いただいた。1試合を通して、大きなことは起こらず無事に終わることができたが、その中でリードの動き方には工夫が必要であるご指導いただいた。具体的には、本ゲームではセンタープレイヤー同士のポジション取りが多く見られ、オフェンス、ディフェンス、リードレフリーが一直線上になってしまいブラインドとなるケースが多かった。トレイルがペネトレイトすることと同じように、リードもプレイヤーの接触がもっともよく捉えられる場所に移動しなくてはならない。	

## ゲーム感想

1試合通して判定しつづけること、リードの動きを工夫することは、これまでも課題としてきていた。本ゲームは最後まで両チームとも全力でプレーしており、1試合通した判定力の重要性を再認識できた。ヴァイオレーションの吹きこぼし、リード時に早い段階でプレーを捉えられていない、という点は1試合の集中力によっていくらか改善できる点であると感じた。「いかにファーストコールのような判定を増やすことができるか」という観点から今後の工夫が必要である。

## 実践実技2

日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など

平成27年3月22日(日)

対戦カード OMガス石油SS(九州2位) vs LOWS(東海2位)

副審 土井 理美

相手審判 近畿・兵庫県 柳生志乃 氏 (A級)

## ゲーム前のカンファレンス内容

- ・個々の課題を意識しながら試合に臨む。
- ・エリア3はトレイルが責任をもって見に行き、引継ぎを明確にする。
- ・選手のアピールもあるかもしれないが、どちらに責任があるのかを見極める。
- ・ゲーム中に積極的に話し合い、気づいた点は修正していく。

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講師: 本部・神奈川県 茂泉圭治 氏 (AA級)

表現という点では、身長を感じさせない表現の仕方をこれから研究していくべきであるをご指導いただいた。また、リード時に、ボール中心になってしまっていること、エリア1や6から向かってくるプレーに対するリードの動きについてご指摘いただいた。特にエリア1と6からのドライブインに対して、支柱の左側にステイしていることがほとんどであった。確認するという点で情報収集が不十分になることが多く、柔軟性がないため、場面によって支柱の右側に寄っていくことも必要である。その選択肢がいつでもとれるような柔軟性を持ち合わせる必要がある。

## ゲーム感想

本ゲームは、オフボールでのスクリーン等、コート上で見ておきたいプレーが多くあった。視野を広く持ちながら、プレーに合わせて位置や体の向きを工夫することが必要となるゲームだと感じた。ボール中心であるという意識が強くなかったため、今後意識して改善していきたい。

## まとめ

本大会は、各ブロックを勝ち上がってきたチームが集まっており、オフボールでのプレーも非常に多く、難しいゲームが続きました。そのようなゲームを担当させていただき、レフリーの4原則を徹底的に行なわなければ、プレーを確認するだけの情報が得られないということを改めて体験することができました。ゲームを通して、課題としてた点について多くのアドバイスをいただき、今後アドバイスいただいた点を踏まえて課題に取り組むことで、ステップアップにつながると感じました。

今回、研修生として参加させていただき、2日目まで割り当てをいただくことができました。多くの審判員の方々とお話もさせていただき、実りある有意義な3日間となりました。このような機会を与えてくださいました北海道協会森野理事長はじめ、日頃より支えてくださっている北海道クラブ連盟の皆様、札幌地区協会の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。